

山梨県南アルプス市

平成 23 年度埋蔵文化財試掘調査報告書

各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書

2013. 3

南アルプス市教育委員会

## 例　　言

1. 本書は山梨県南アルプス市において平成23年度に実施した埋蔵文化財試掘調査報告書である。
2. 本事業は国宝重要文化財等保存整備費補助金・山梨県文化財関係補助金を受け、南アルプス市教育委員会が実施した。
3. 調査は田中大輔、斎藤秀樹、保阪太一が担当した。
4. 本書の執筆・編集は斎藤が行った。
5. 整理作業には、加藤由利子、小林素子、桜井理恵、塩澤宏紀、高畠美和、山路宏美が参加した。
6. 本調査で得られた出土品およびすべての記録は、南アルプス市教育委員会に保管してある。
7. 試掘調査から報告書作成まで、次の諸氏、諸機関にご教示、ご協力を賜った。記して感謝の意したい。(敬称略・五十音順)  
公益財団法人山梨文化財研究所、山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センター

## 凡　　例

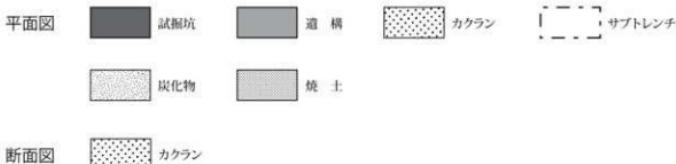
1. 遺構図の縮尺はそれぞれ図に明記した。遺物実測図の縮尺は以下の通りである。

土器・・・・・1/3

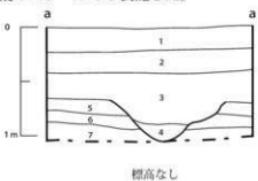
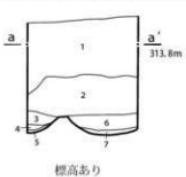
石器・・・・・1/2

なお、遺物観察表の法量（口径・底径）において（）内の数値は、反転実測して求めた数値である。

2. トレンチ配置図および遺構図中で使用したスクリーントーンはそれぞれ図版中に凡例を示したが、原則は以下の通りである。



3. 遺構の断面図、基本層序図における「313.8m」等の数値は標高を表す。また試掘調査時レベルを使用せず、地表から簡易的に測量した断面図には縦のスケールのみ表記した。



## 目 次

例 言

凡 例

目 次

第Ⅰ章 平成23年度試掘調査概要	1
1. 南アルプス市概要	1
2. 調査概要	1
3. 今後の課題と展望	2
第Ⅱ章 平成23年度遺跡試掘調査概要	5
1. 坂ノ上姥神遺跡第4地点(徳永1715他)、百々・上八田遺跡(上八田1620他)	5
2. 坂ノ上姥神遺跡第2地点	16
3. 百々・上八田遺跡(上八田1544-1)	24
4. 西野1694-1	28
5. 上ノ切第1遺跡(鏡中条433-2)	30
6. 鮎沢366-1、367	32
7. 前御勅使川堤防址群(野牛島1845-86)	36

# 第Ⅰ章 平成23年度試掘調査概要

## 1. 南アルプス市概要

平成15年4月1日に八田村、白根町、芦安村、若草町、櫛形町、甲西町の4町2村が合併して生まれた南アルプス市は、甲府盆地の西部に位置し、総面積264.06km<sup>2</sup>、山梨県の面積の約5.9%を占めている。市西部は北岳(3,193m)をはじめ、間ノ岳(3,189m)、仙丈ヶ岳(3,033m)、鳳凰三山など3,000m級の山々が連なる南アルプス山系となっており、森林原野が市面積の約73%を占めている。一方市東部は南アルプスやその前衛巨摩山地から流下する御勘使川や滝沢川、坪川等によって造り出された複数の扇状地が重なり合う複合扇状地となっている。市の東縁には釜無川が南流しており、扇状地が削られ氾濫原が造り出されている。

## 2. 調査概要

平成23年度の試掘調査は総数22件を数える(第1・2表)。昨年度の35件と比べると明らかに減少した。これは蓄積したデータを活用し、より効率的な試掘調査を選択した結果でもあるが、南アルプス市に申請が出された開発行為自体が平成18年度の年間140件と比べて50件と低調であったことが大きな原因である(第3表、グラフ1)。

調査原因を公共事業、民間事業別で見ると、公共事業に対する試掘の割合は、平成15～17年度までは約11～15%であったが、平成18年度を境に増加に転じ、平成20・21年度には30～34%まで増加、しかし本年度は一転して9.1%と減少傾向となった。平成21年度までは災害復旧などの公共

調査原因	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	合計	
公共事業	道路	3	3	3	7	4	4	5	2	0	31
	学校	2	0	1	2	1	1	4	0	1	12
	公共施設	2	1	4	0	2	3	0	5	1	18
	範囲確認調査	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	小計	7	4	8	9	7	10	9	7	2	63
	公共事業の割合(%)	14.9	11.8	14.8	23.7	29.2	34.5	30.0	20.0	9.1	20.1
民間事業	個人住宅	12	2	3	5	3	2	5	9	3	44
	個人住宅兼店舗	2	1	2	0	0	1	0	0	0	6
	集合住宅	1	4	5	5	7	5	5	6	5	43
	工場	0	2	4	3	1	2	1	1	2	16
	店舗	8	3	3	1	1	0	3	0	3	22
	宅地造成・分譲	13	13	16	13	5	3	5	8	5	81
	倉庫	1	2	1	0	0	0	0	0	0	4
	駐車場	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3
	鉄塔	1	0	7	0	0	2	1	1	0	12
	その他	1	3	3	2	0	4	1	3	2	19
小計		40	30	46	29	17	19	21	28	20	250
合計		47	34	54	38	24	29	30	35	22	313

第1表 平成15～23年度試掘調査原因一覧

第2表 平成23年度試掘調査一覧

No.	遺跡名・試掘名	調査地	対象面積 (m <sup>2</sup> )	調査面積 (m <sup>2</sup> )	トレンチ数	遺構	遺物	調査期間	調査原因
1	御城・天神遺跡	御城772-2地	622.27	24.67	3	なし	土器	2011年4月14日	切地造成・引継住宅
2	平ノ上遺跡調査4地点、百々・上 ノ田遺跡	標高1175m、上ノ田 1520m	3,637	14.96	8	智門遺跡、溝状遺構、土 壇	土器	2011年5月10～20日	私市小学校グランド
3	古墳北側A遺跡	古田1384	954	22.8	2	なし	なし	2011年7月21日	集合住宅
4	古田1054-1地	古田1054-1地	1,869.25	71	2	なし	なし	2011年8月5日	切地造成・引継住宅
5	平ノ上遺跡調査2地点	標高1170m・地	1,864	32.05	3	智門遺跡、溝状遺構、土 壇	土器	2011年8月11日～9月1日、 2012年1月1日	私山中学校
6	新宿遺跡	新宿1987-1地	1,861.30	10.61	2	なし	なし	2011年9月28日	集合住宅
7	新宿遺跡調査	新宿1987-3地	2,366.74	6	1	なし	なし	2011年10月1日	住居
8	百々・上ノ田遺跡	上ノ田1344-1	407.76	7.75	2	智門遺跡?	鐵文土器	2011年10月17～19日	個人住宅
9	小笠原1440-1	小笠原1440-1	1,860	26.8	1	なし	なし	2011年10月24日	町中会館
10	百々・八戸遺跡	百々2257-3	296.64	4.03	1	なし	なし	2011年11月2日	個人住宅
11	西野1664-1	西野1664-1	960	15.01	2	溝状遺構	なし	2011年11月10日	集合住宅
12	上ノ切ノ1遺跡	御手洗430-2	403.01	7.08	2	なし	土器	2011年11月14日	個人住宅
13	船津366-1、367	船津366-1、367	812	13.05	2	智門遺跡、溝状遺構	土器	2011年11月15日	集合住宅
14	下ノ田遺跡242-1地	下ノ田遺跡242-1地	1,863	19.5	3	なし	なし	2011年11月18日	切地造成・引継住宅
15	御城跡(御城馬鹿)	御城1365-86	1,067.47	11.6	2	樹根	なし	2011年11月18～24日	住居
16	西ノ遺跡	西野205-1地	1,897.82	17.5	2	なし	土器	2011年12月1日	切地造成・引継住宅
17	萬葉の埋蔵古墳2	企里1399-1地	1,939.02	8.4	1	なし	なし	2012年1月11日	住居
18	古墳美里遺跡	御手洗25-2地	3,572	27	3	なし	なし	2012年1月27日	切地造成・引継住宅
19	藤原川沿い遺跡	野中郷1372-23	200	4.8	1	なし	なし	2012年1月31日	工場
20	西野2060-2	西野2060-2	7,966	7.95	1	なし	なし	2012年1月22日	新築工事場
21	上ノ田遺跡(御城馬鹿)	上ノ田1307-1地	2,289.5	8.17	1	なし	なし	2012年1月22日	集合住宅
22	御城跡(御城馬鹿)	下ノ田1-4	707.73	8.7	1	なし	なし	2012年1月26日	工場

事業による緊急経済対策が図られ、本年度は景気刺激策の反動や合併特例債の期限がせまり市財政状況が逼迫する中、公共事業を減少せざるをえない状況を示している。

調査原因を開発行為における用途別で見ると、宅地造成・分譲が5件、集合住宅が5件を数え、例年どおり住宅にかかる件数が多い。この結果を地区別開発数と重ねて見てみると、櫛形・若草地区では開発件数の中で建売分譲、宅地分譲、共同住宅の占める比率が他地区より高い。市内において住宅化が最も進んでいる地域であり、その結果試掘調査もその地域に集中する傾向にある。

### 3. 今後の課題と展望

平成23年度の経済は、3月11日に発生した東日本大震災によって一時大きく落ち込んだが、その後回復に向かった。しかし、円高や海外経済の減速によって輸出が伸び悩み、鉱工業生産が減速、景気は全体的に鈍化傾向であった。こうした日本経済を反映して市内の開発件数は50件と合併後最小となり、試掘件数も同様に22件と最小件数となった。

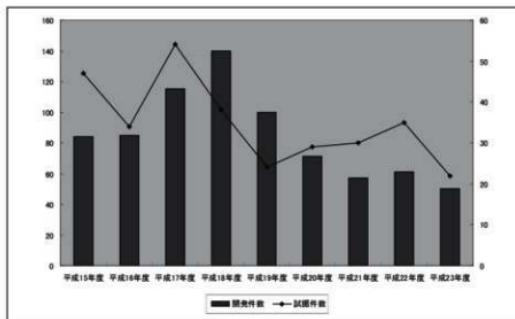
本年度の試掘調査を概観すると、坂ノ上姥神遺跡、百々・上八田遺跡や上ノ切第1遺跡など御勅使川扇状地扇端部に位置する遺跡での遺構検出事例が多い。とりわけ百々・上八田遺跡は縄文時代後期、古墳時代後期、奈良・平安時代から中世までの遺構が検出されており、扇端部に連続した集落が営まれてきた状況がより一層明確となった。船津366-1、同367は周知の埋蔵文化財包蔵地（以下包蔵地）ではなかったが、古墳時代から奈良・平安時代までの遺物が多数出土した。調査地点は御勅使川扇状地の扇

端部と沖積低地の境界に立地しており、低地に広がる湧水を利用した集落が周囲に展開していることが明らかとなった。また、これまで遺構が検出されなかった御勅使川扇状地扇央部に位置する西野地区で溝状遺構が検出された調査成果も注目される。西野周辺で実施した試掘調査では、砂礫層が厚く堆積し遺構が検出できなかつたが、現在の集落内に位置する調査地点では地山となる明褐色粘土層が堆積し、その粘土層を掘り込んで造られた時期不明の溝状遺構が確認された。この調査結果から、現在の西野集落付近では御勅使川の氾濫を受けにくい微高地が存在し、時期は不明ながら中世以前の遺跡が広がっている可能性が示唆された。一方前御勅使川堤防址群の調査では前御勅使川右岸を守る堤防の一部が検出され、周辺の堤防遺跡の調査例と比較する上で貴重な調査成果となった。

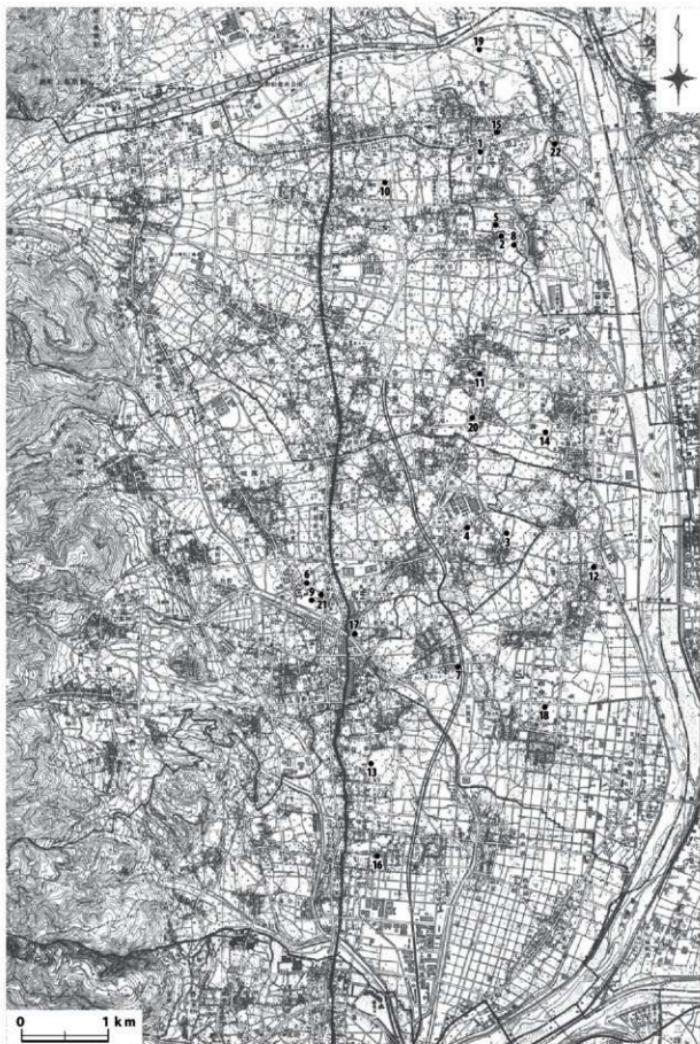
以上試掘調査では、既知の包蔵地以外でも未発見の遺跡が多数埋没している可能性が改めて示されたといえる。今後も工事・開発が計画された場合、緻密な試掘・確認調査が必要であり、周知の埋蔵文化財包蔵地の把握に努めることが、埋蔵文化財保護の土台であり出発点であろう。

年度	開発件数	試掘件数
平成 15 年度	84	47
平成 16 年度	85	34
平成 17 年度	115	54
平成 18 年度	140	38
平成 19 年度	100	24
平成 20 年度	71	29
平成 21 年度	57	30
平成 22 年度	61	35
平成 23 年度	50	22
合計	763	313

第3表 年度別開発行為件数および試掘件数



グラフ1 年度別開発行為件数および試掘件数



第1図 試掘調査地点位置図 (1/50,000)

## 第Ⅱ章 平成23年度遺跡試掘調査概要

### 1. 坂ノ上姥神遺跡第4地点、百々・上八田遺跡

調査地 德永 1715他、上八田 1620他

調査原因 私立小学校グランド

調査期間 平成23年5月10～20日

対象／調査面積 3,417 m<sup>2</sup> / 14.96 m<sup>2</sup>

調査地点は御動使川扇状地扇端部に位置する。調査区周辺の扇状地扇端部は市内でも遺跡が集中する地域であり、各種工事に伴う立会、試掘、発掘調査が行われている。調査区の北側は宅地分譲工事に伴い、平成15年度に道路部分の発掘調査が行われ、奈良～平安時代初頭の集落跡が発見されている。南側では、平成17年度に個人住宅の浄化槽と浸透井の設置に伴う調査が行われ、10世紀前半の遺物を伴う竪穴建物が検出された。調査区の南東には武田家の家臣であった金丸氏の館跡（現在は曹洞宗寺院長盛院）が位置し、長盛院本堂の建替工事に伴う試掘調査により、時期は不明ながら基壇状の遺構が発見されている。さらに南側には徳永・御崎遺跡が広がり、集合住宅や個人住宅建設に伴う調査の結果から、古代の竪穴建物や古墳時代後期の竪穴建物、さらに下層から绳文時代後期の敷石住居址が検出されている。

本試掘調査は私立小学校グランド建設工事に伴うものである。平成22年度に第1～11トレンチまで調査し、平成23年度に第12～19トレンチを設定し、調査を実施した。

坂ノ上姥神遺跡では複数年度にわたり試掘・確認調査および発掘調査が行われてきた。そのため、調査地点名および調査原因、調査結果を年度別に確認しておきたい。

■平成15年度：宅地分譲に伴う試掘・確認調査（第1次調査第1・2トレンチ）実施後、同年道路部分の発掘調査を実施した。坂ノ上姥神遺跡。

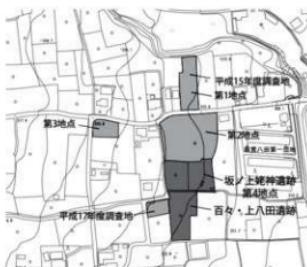
■平成20年度：南アルプス子どもの村小学校建設に伴う試掘・確認調査（第1～7トレンチ）を実施し、平成21年度小学校西側の道路拡幅に伴う発掘調査を実施した。坂ノ上姥神遺跡第2地点。

■平成20年度：個人住宅建設に伴う浄化槽部分の発掘調査を実施した。坂ノ上姥神遺跡第3地点。

■平成22年度：南アルプス子どもの村小学校グランド建設に伴う試掘・確認調査（第1～11トレンチ）を実施した。第1～5トレンチは坂ノ上姥神遺跡第4地点。第6～11トレンチは百々・上八田遺跡に該当。

■平成23年度：南アルプス子どもの村小学校グランド建設に伴う試掘・確認調査（第12～19トレンチ）を実施した。第13～19トレンチは坂ノ上姥神遺跡第4地点。第12トレンチは百々・上八田遺跡に該当。

■平成23年度：南アルプス子どもの村中学校建設工事に伴う試掘・確認調査を実施した。平成20年度に実施した坂ノ上姥神遺跡第2地点に該当するため、トレンチを前回からの継続番号とし、第8トレンチとした。



第1-1図 調査位置図 (1/5,000)

## 発見された遺構と遺物

本年度は第12～19トレンチの試掘調査を実施し、第14・16・17～19トレンチで遺構、遺物を検出した（第1-2図）。

### 第14トレンチ（第1-3図）

地表から約35cmの地点から竪穴状の遺構を検出した。遺構の大部分が調査範囲外に広がるため、正確な形状は不明である。深さは遺構確認面から約40cmを測る。

### 第16トレンチ（第1-4図）

地表から約60cmの地点から竪穴状の土坑を2基検出した。遺構が調査範囲外に広がるため、正確な形状は不明である。深さは遺構確認面から14～18cmを測る。

### 第17トレンチ（第1-5図）

地表から約52cmの地点から南北に走る溝状遺構と推測される遺構を検出した。遺構の西側が調査範囲外に広がるため、正確な形状は不明である。深さは遺構確認面から約17cmを測る。

遺物は甲斐型土師器環や須恵器裏等の小片が出土した。

### 第18トレンチ（第1-6図）

地表から約45cmの地点から東西に走る溝状遺構と土坑を検出した。溝状遺構は幅34～45cm、深さ約11cmを測る。土坑は調査範囲外に広がるため正確な形状は不明であるが、現状で幅約82cm、深さ約14cmを測る。土坑には炭化物が主体の燒土を含む覆土が堆積していた。

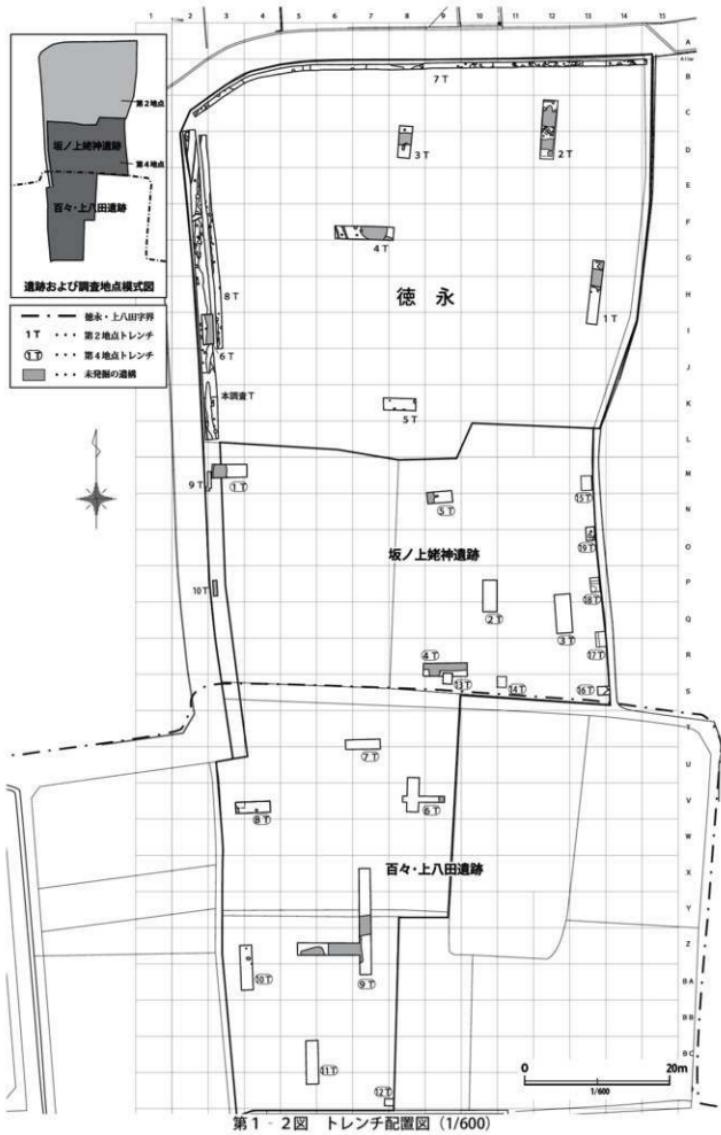
遺物は土坑から甲斐型土師器環・甕や須恵器裏等の小片が出土した。

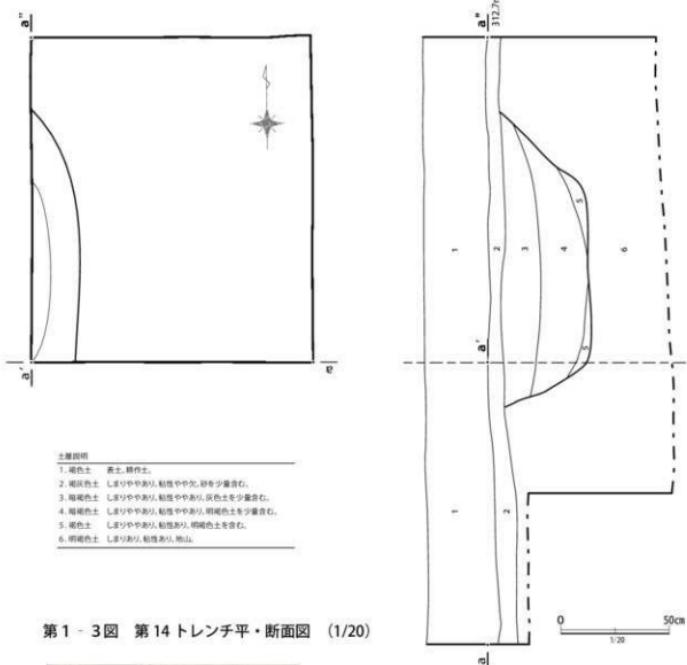
### 第19トレンチ（第1-7、1-8図）

地表から約70cmの地点から竪穴建物を検出した。トレンチがちょうど竪穴建物の中央付近に当たったため竪穴建物の立上りを検出できず、遺構の形状や大きさは確認できなかった。確認面から床面までの深さは約34cmを測る。トレンチ南東に焼土と炭化物が堆積していたことから、カマド跡と推測される。検出した床面上には約1～3cmの厚さの炭化物層が検出された。遺物は甲斐型の土師器環・甕・甕片・土師器ロクロ甕片・須恵器甕片が出土した。これらの遺物から宮ノ前VI期9世紀中頃に比定される。

## 総括

ここでは次節の私立中学校建設も含めて遺跡の保護措置について総括したい。小学校グランドの造成工事および中学校校舎建設工事ともに工事掘削面と遺跡との間に山梨県教育委員会の規定する保護層が確保されるため、事業主体者と市教育委員会との協議の結果、現状保存とした。





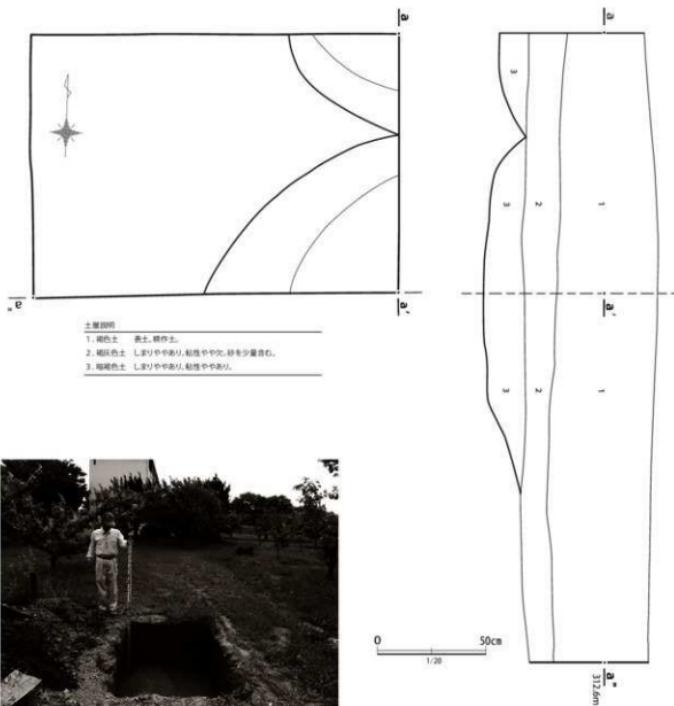
第1 - 3図 第14 トレンチ平・断面図 (1/20)



第14 トレンチ全景（南から）



第14 トレンチ西壁断面



第16 トレンチ全景（西から）

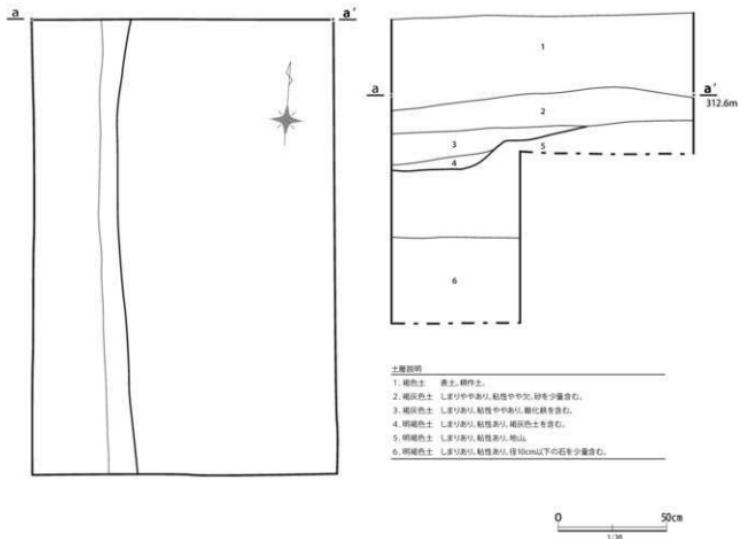
第1-4図 第16 トレンチ平・断面図 (1/20)



第16 トレンチ遺構完掘状況（西から）



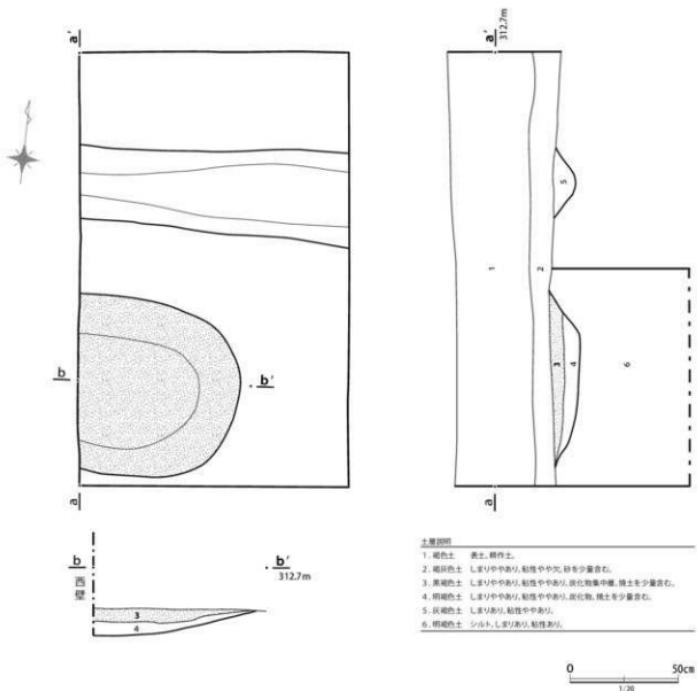
第16 トレンチ南壁断面



第17 トレンチ全景 (北から)



第17 トレンチ西壁断面



第1-6図 第18トレンチ平・断面図 (1/20)



第18トレンチ全景（南から）



第18トレンチ遺構検出状況（北から）



第18 レンチ遺構検出状況



第18 レンチ土坑断面（北から）



第18 レンチ西壁土坑断面



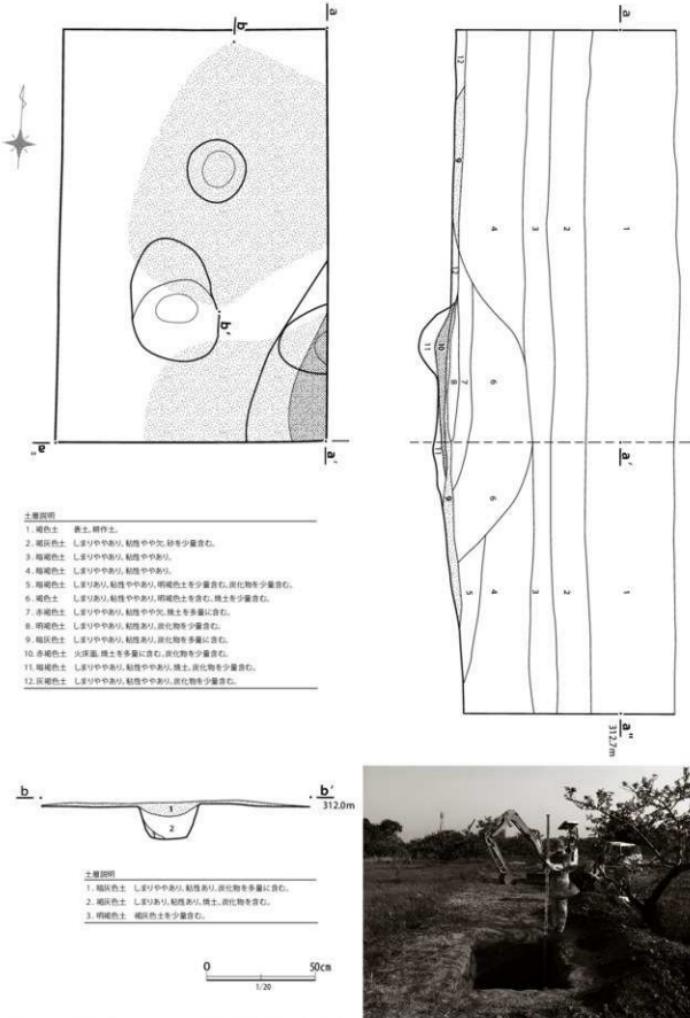
第18 レンチ土坑完掘状況

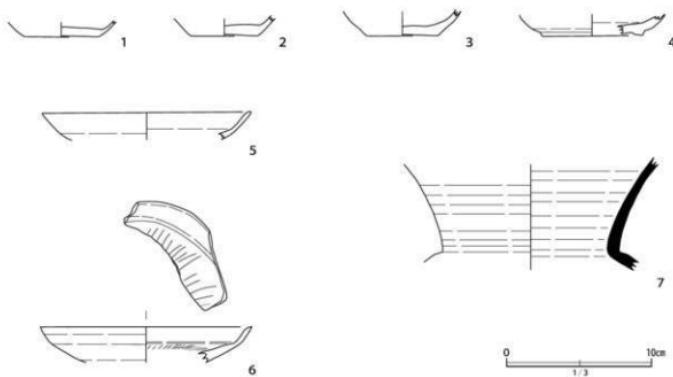


第18 レンチ溝状遺構完掘状況



第18 レンチ遺構状遺構完掘状況（北から）





第1 - 8図 第19トレンチ出土遺物 (1/3)

第1 - 1表 土器観察表

番号	種別	断面	法寸 (cm)			性 存 率 (%)	製作方法		粘土	含 有 物	色調 外 / 内	焼成	注記番号
			口幅	底径	器高		内面	外面					
1	土師器	坪	-	5.2	-	直部	ロクロ型形	滑	白色粒子	普通	白や 黄 青	SUA.19T	
2	土師器	坪	-	4.6	-	直部破片	ロクロ型形	滑	赤色・白色粒子	滑	黄	SUA.19T	
3	土師器	坪	-	(5.0)	-	直部破片	ロクロ型形	滑	赤色・白色粒子	滑	黄	SUA.19T	
4	土師器	高台坪	-	(6.0)	-	直部破片	ロクロ型形	滑	白色粒子	滑	普通	SUA.19T	
5	土師器	皿	(14.4)	-	-	口縁破片	ロクロ型形	滑	赤色粒子	滑	普通	SUA.19T	
6	土師器	皿	(14.6)	-	-	口縁破片 縁文	ロクロ型形、ヘラケズリ	滑	赤色・白色粒子	滑	黄	SUA.19T(住1)	
7	漆器器	盤	-	-	-	破片	ロクロ型形	滑	白色粒子	着灰	黑	SUA.19T	



第19トレンチ出土遺物

第19トレンチ出土遺物



第19 トレンチ豊穴建物検出状況



第19 トレンチ豊穴建物完掘状況



第19 トレンチ豊穴建物カマド



第19 トレンチ豊穴建物カマド断面



第19 トレンチ南壁断面



第19 トレンチ作業風景

## 2. 坂ノ上姥神遺跡第2地点

調査地 德永 1718-1、1719-1、1720-1、1720

調査原因 私立中学校

調査期間 平成 23年 8月 11日～9月 1日

平成 24年 3月 1日

対象／調査面積 1,844 m<sup>2</sup> / 32.25 m<sup>2</sup>

調査概要

本試掘調査は南アルプス子どもの村中学校建設に伴うものである。前節の調査原因である小学校グラウンド建設と本節の中学校建設は、同一区域内でほぼ同時に進められた事業であるが、両工事の開発申請および文化財保護法第93条の届出も異なるため、本報告書では別事業の調査として報告した。しかし、両地点で検出された遺構は坂ノ上姥神遺跡と百々・上八田遺跡に広がる同一の集落とみてまず間違いない（第1-2図）。地理・歴史環境は前節を参照していただきたい。

### 発見された遺構と遺物（第2-2～5図）

調査地点は平成 20 年度小学校建設に伴い実施した試掘調査（第1～7トレンチ）の対象範囲に含まれる（坂ノ上姥神遺跡第2地点と呼称）。このため、本試掘調査トレンチを前回からの続き番号である第8～10トレンチとした。また、調査地点は平成 21 年度小学校西側の道路拡幅に伴い発掘調査を実施した本調査範囲の東側に隣接するため、検出された溝状遺構や土坑も続き番号とした。

#### 2号溝状遺構

トレンチ北端で発見された。平成 21 年度の本調査で発見された 2 号溝状遺構の東端である。大部分が調査区外に広がるため、幅は不明である。深さは約 20cm を測る。南北方向へ延びており、3 号溝状遺構とほぼ平行している。遺物は少量の鍋片やかわらけ片が出土した。遺物から見ると、少なくとも中世には機能したと考えられるが、古代まで遡る可能性も考えられる。

#### 3号溝状遺構

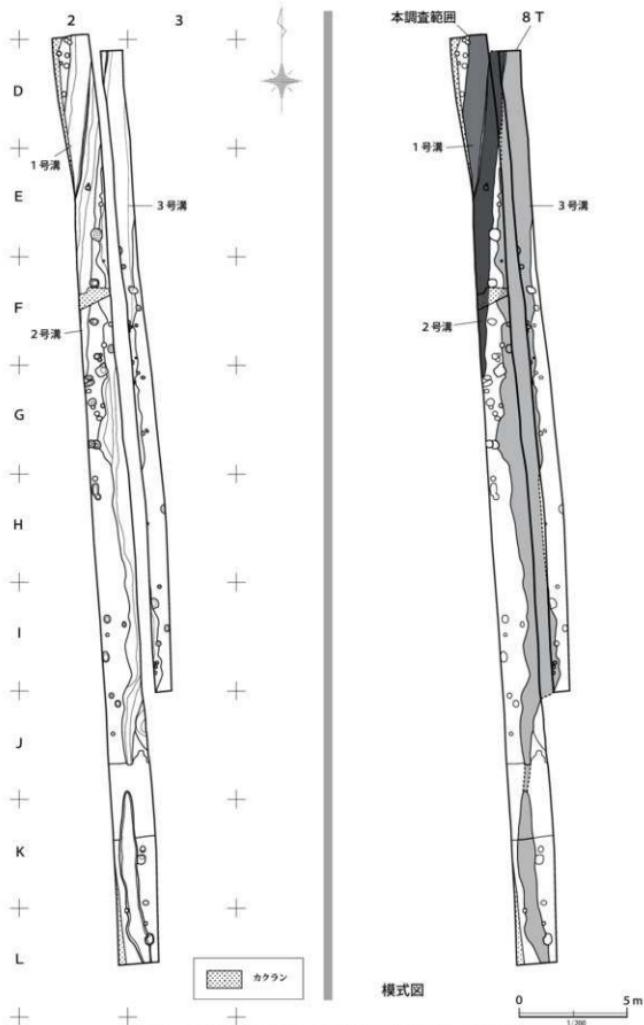
平成 21 年度の本調査で発見された 3 号溝状遺構と同一の遺構である。本調査範囲まで含めると幅 0.3 ~ 2.2m を測り、床面から遺構確認面までの深さ約 18cm を数える。南北方向へ延びており、2 号溝状遺構とほぼ平行している。第 10 トレンチでは遺構の覆土と同質の暗褐色土層が検出され、底面がやや西側に立ちあがる状況が確認できた。調査範囲が狭小なため、遺構かどうかの判断に苦しむが、第 10 トレンチの位置が南北に伸びる 3 号溝状遺構の方向と一致することから、同トレンチまで 3 号溝状遺構が伸びる可能性も考えられる。遺物は少量の土器器坏や甕片、須恵器器片、かわらけ片が出土した。遺物の主体は古代だが、若干中世の遺物も含まれていた。小片のため時期決定は難しいが、現時点では溝状遺構が機能したのは古代から中世までと考えておきたい。

#### 竪穴建物

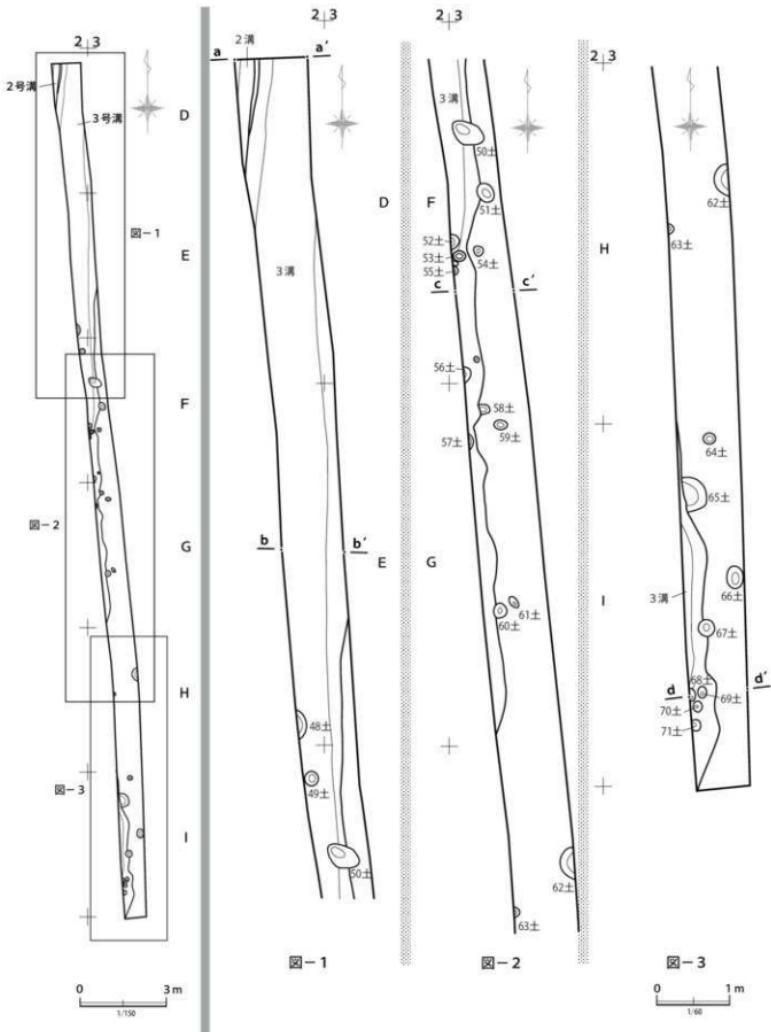
第 9 トレンチの南端で焼土が集中する遺構を検出した。調査範囲が狭いため、特定はできないが、焼土の堆積状況や東側にやや突出する形状から考えると、竪穴建物の東壁に造られたカマド跡と推測される。



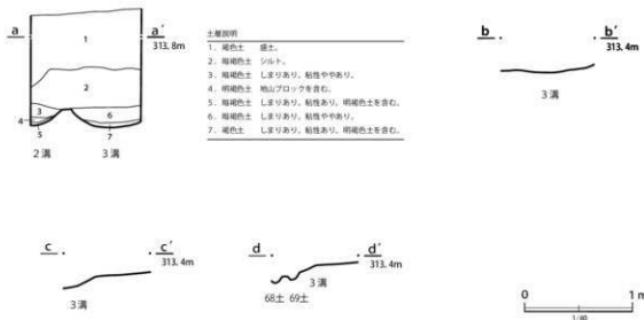
第2-1図 調査位置図 (1/5,000)



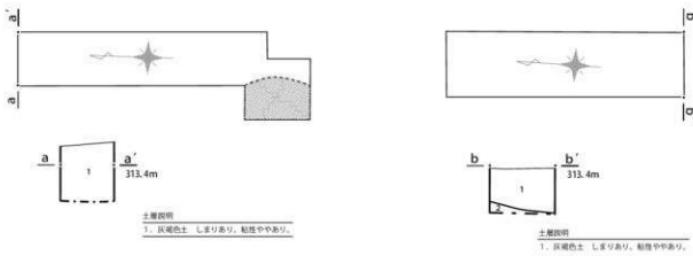
第2 - 2図 第8トレンチ遺構図および模式図 (1/200)



第2・3図 第8トレンチ全体図 (1/150, 1/60)



第2-4図 第8トレーニチ2、3号溝断面図およびエレベーション図 (1/40)



第9トレーニチ

第10トレーニチ



第2-5図 第9、10トレーニチ平・断面図 (1/40)

第2-1表 土坑計測表

土坑番号	位置	形	径(cm)	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
48	E 2	-		(42)	(13)	5.8	
49	F 2	橢円形		22	19	5.8	
50	F 3	不整形		46	30	18	
51	F 3	橢円形		28	22	5.7	
52	F 3	-		(22)	(12)	4.8	
53	F 3	橢円形		20	16	6.5	
54	F 3	橢円形		15	12	5.2	
55	F 3	-		(12)	(6)	3.1	
56	F 3	-		(20)	(10)	5.2	
57	G 3	-		(23)	(7)	2.8	
58	G 3	(橢円形)		(13)	(14)	3.4	
59	G 3	橢円形		17	14	3.7	
60	G 3	橢円形		21	18	4.6	
61	G 3	橢円形		17	10	4.2	
62	H 3	-		(44)	(18)	3.3	
63	H 3	-		(14)	(8)	2.3	
64	I 3	円形	16			21.4	
65	I 3	-		(50)	(30)	4.3	
66	I 3	橢円形		30	24	11.4	
67	I 3	円形	23			4.4	
68	I 3	-		(17)	(10)	5.8	
69	I 3	橢円形		17	12	5.5	
70	I 3	橢円形		16	12	6.8	
71	I 3	円形	15			9.8	

※1・・・試掘調査地点が平成21年度に行った坂ノ上姫神遺跡第2地点の本調査地点と隣接するため、土坑番号は本調査地点の土坑（1～47号土坑）から続く番号（48号～）とした。

※2・・・ - 調査区外へ遺構が続く土坑で、形状不明なもの。

※3・・・ ( ) 調査区外へ遺構が続く土坑の現存値。

### 総括

本節では前節の調査結果も含めて総括したい。調査の結果、奈良・平安時代の竪穴建物、土坑、溝状遺構および中世の溝状遺構を検出した。これまでの調査結果を総合すると、御勅使川扇状地扇端部に立地する坂ノ上姫神遺跡から百々・上八田遺跡では、以下のような土地利用の変化が明らかとなった。

奈良・平安時代：東西・南北方向に溝状遺構が走り、溝で区画された土地に竪穴建物が建てられ、集落が展開する。

中世：竪穴建物は姿を消し、溝状遺構だけが認められる。溝状遺構は古代の溝の方向とほぼ同じ方向に構築されている。

小規模な試掘調査ではあるが、蓄積された過去の調査データと重ねて検証することで、地域の新たな歴史の一端を明らかにすることができる貴重な資料が得られた。



第8 トレンチ全景（南から）



第8 トレンチ全景（北から）



第8 トレンチ 3号溝（北から）



第8 トレンチ 3号溝（南から）



第8 レンチ 3号溝断面（南から）



第8 レンチ 3号溝および土坑（南から）



第8 レンチ作業風景（南から）



第8 レンチ作業風景（北から）



第9 トレンチ全景（南西から）



第9 トレンチ焼土検出状況



第9 トレンチ焼土検出状況（北から）



第10 トレンチ全景（北から）



第10 トレンチ断面（西から）



作業風景（南から）

### 3. 百々・上八田遺跡

調査地 上八田 1544-1

調査原因 個人住宅

調査期間 平成 23 年 10 月 17 ~ 19 日

対象／調査面積 407.76 m<sup>2</sup> / 7.55 m<sup>2</sup>

#### 調査概要

調査地点は御勒使川扇状地扇端部に位置する。第 1・2 節の坂ノ上姥神遺跡および百々・上八田遺跡の南側に隣接している。北東には徳永・御崎遺跡が隣接し、過去 3 回試掘調査が実施され、明褐色土層上に古墳時代後期および古代の堅穴建物が検出され、その下層から縄文時代後期の敷石住居址や配石遺構が発見されている。旧町村境と接しているため遺跡名は異なるが、徳永・御崎遺跡と同一の遺跡である。

本試掘調査は個人住宅の建設に伴うものであり、第 1・第 2 トレンチを設定した。

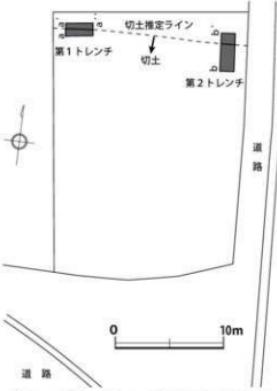
調査の結果、第 2 トレンチから縄文時代後期の土器片が多数出土した。明確な遺構は把握できなかったが、第 4 層を覆土とする遺構の内部を調査した可能性もある。第 1 および第 2 トレンチの南側は後世のカクランを受けており、比較的新しい時代に切土されている状況が明らかとなった。

遺物は堀之内 1 式、同 2 式の土器が主体である。調査面積の割りに出土数が多いが、土器は磨耗しており、ほとんど接合できなかった。

住宅建設部分は山梨県教育委員会が規定する遺跡との保護層が確保されるため、事業主体者と市教育委員会との協議の結果、現状保存とした。



第 3-1 図 調査位置図 (1/5,000)



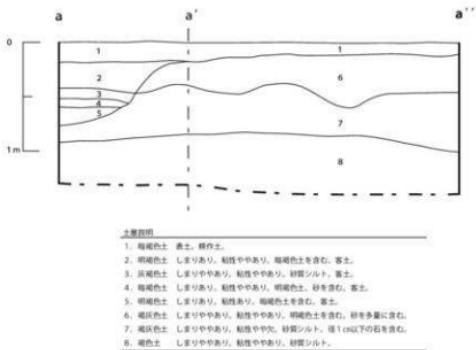
第 3-2 図 トレンチ配置図 (1/400)



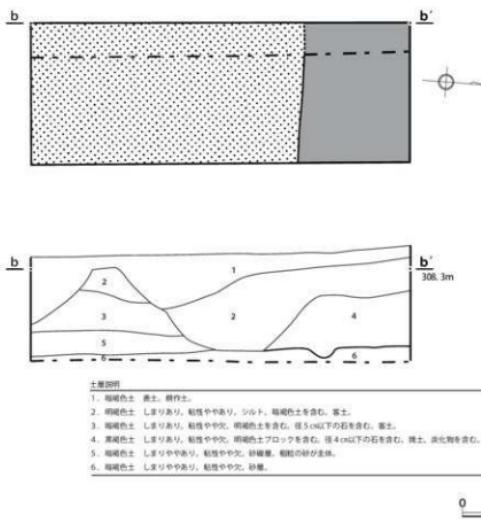
第 1 トレンチ全景 (東から)



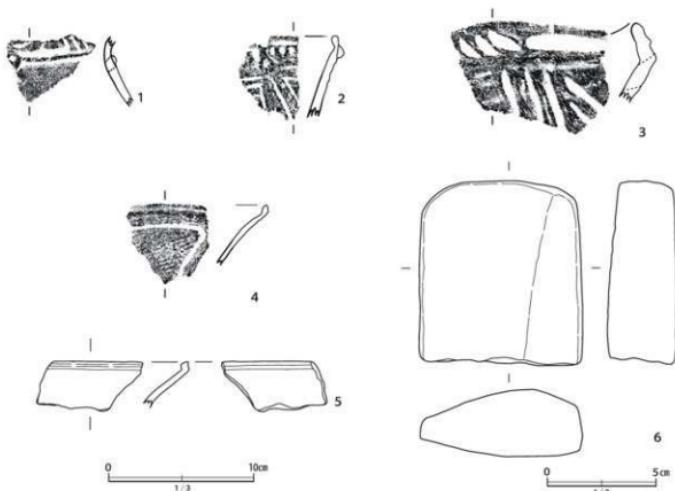
第 1 トレンチ断面 (南東から)



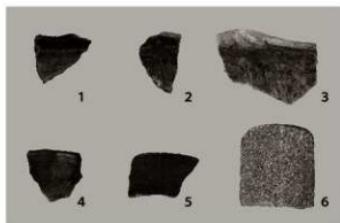
第3-3図 第1トレンチ断面図 (1/40)



第3-4図 第2トレンチ平・断面図 (1/40)



第3-5図 第2トレーニチ出土遺物 (1/3・1/2)



第2トレーニチ出土遺物

第3-1表 土器観察表

番号	種別	断面	延長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	保存率(%)	型形・施文接法	胎土	含有机物	色調 外/内	焼成	記号番号	備考	
1	縞文後期	深鉢	-	-	-	-	直縫	縞文	赤	黄石、石英、白色粒子	に赤い黄緑	新透	DUU15442T	
2	縞文後期	深鉢	-	-	-	-	口縫破片	光縫、キザミ	赤	黄石、石英、白色粒子	に赤い黄緑/に赤い黄緑	新透	DUU15442T	
3	縞文後期	深鉢	-	-	-	-	口縫破片	光縫	赤	黄石、石英、白色粒子、小縫	に赤い黄緑/浅黄緑	新透	DUU15442T5	
4	縞文後期	深鉢	-	-	-	-	口縫破片	光縫、縞文	赤	黄石、石英、白色、白色粒子	に赤い緑	新透	DUU15442T	
5	縞文後期	深鉢	-	-	-	-	口縫破片	ナフ	赤	黄石、石英、白色粒子	赤	新透	DUU15442T	

第3-2表 石器観察表

番号	基盤	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	保存率	記号番号	備考
6	石斧	8.4	7.5	3.1	249	-	新透	DUU15442T



第2トレンチ全景（南から）



第2トレンチ全景（北から）



第2トレンチ西壁断面（東から）



第2トレンチ西壁断面（東から）



第2トレンチ作業風景



第2トレンチ作業風景

#### 4. 西野 1694-1

調査地 西野 1694-1

調査原因 集合住宅

調査期間 平成 23 年 11 月 10 日

対象／調査面積 860 m<sup>2</sup> / 15.55 m<sup>2</sup>

##### 調査概要

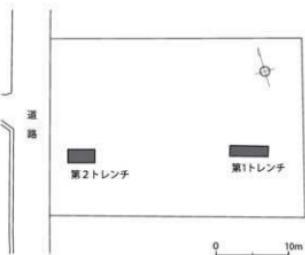
調査地点は御勅使川扇状地扇尖部に位置する。調査地点周辺では平成 15 年の南アルプス市誕生以後、複数の試掘調査を実施してきたが、いずれの地点も砂礫層が厚く堆積し、遺構・遺物とともに発見されなかった。これは平安時代に御勅使川の本流が西野の北側を流れおり（御勅使川南流路）、その影響下にあったことを意味している。

本試掘調査は集合住宅建設に伴うもので、2箇所のトレンチを設定した。調査の結果、第1トレンチから幅約 70cm、深さ約 15cm の溝状遺構を検出した。本調査地点では、砂礫層ではなく、明褐色シルト層が堆積しており、このシルト層を掘り込んで溝状遺構は造られていた。遺物が出土していないため正確な構築年代は不明であるが、シルト質の黒～暗褐色土を主体とする覆土から考えると、少なくとも中世まで遡る遺構であると推測される。

これまで遺跡が検出されなかった地域で溝状遺構が発見されたことは、御勅使川扇状地の狭小な旧流路間にも遺跡が存在していたことが示された点で重要な成果であると言える。調査結果から、住宅建設部分は山梨県教育委員会が規定する遺跡との保護層が確保されるため、現状保存とした。



第4-1図 調査地位置図 (1/5,000)



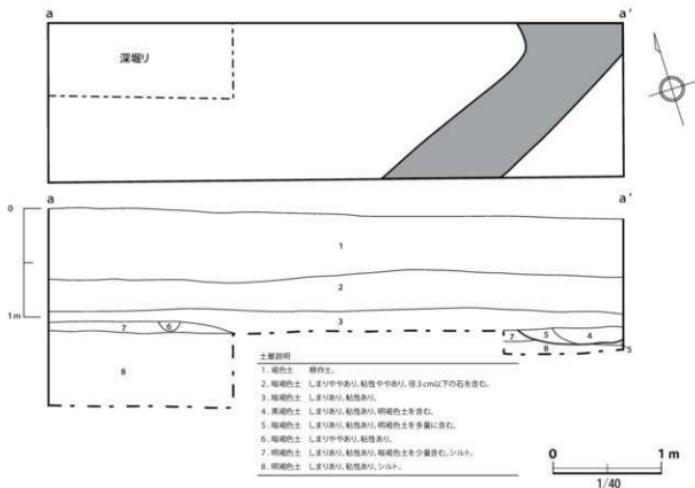
第4-2図 トレンチ配置図 (1/600)



第1トレンチ全景（東から）



第1トレンチ全景（西から）



第4-3図 第1トレンチ平・断面図 (1/40)



第1トレンチ構造検出状況（南から）



第1トレンチ構造断面（南から）



第2トレンチ全景（南東から）



作業風景

## 5. 上ノ切第1遺跡

調査地 鏡中条 433-2

調査原因 個人住宅

調査期間 平成 23 年 11 月 14 日

対象／調査面積 403.01 m<sup>2</sup> / 7.88 m<sup>2</sup>

### 調査概要

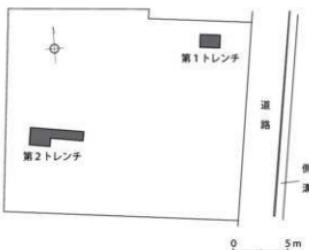
調査地点は御動使川扇状地扇端部に位置する。扇状地扇端部には弧状に点在する湧水地点と平行して、弥生時代後期から中世までの遺跡が濃密に分布している状況が明らかとなっている。調査地点の北西約 310 m に位置する村北第2遺跡では本格調査が行われており、平安時代の堅穴建物跡 1 軒、中世の土坑墓 2 基などが検出されている。

本試掘調査は個人住宅建設に伴うもので、2箇所のトレンチを設定した。調査の結果、第1トレンチで時期は不明ながら溝状遺構が 1 条検出された。また第1トレンチではこの溝状遺構の地山となる層から古墳時代前期から平安時代の遺物が出土しており、遺物包含層が厚く堆積していることが確認された。第2トレンチでは地下水が湧出した影響もあり、明確な遺構が検出されなかつたが、古墳時代前期から中世までの遺物が出土した。

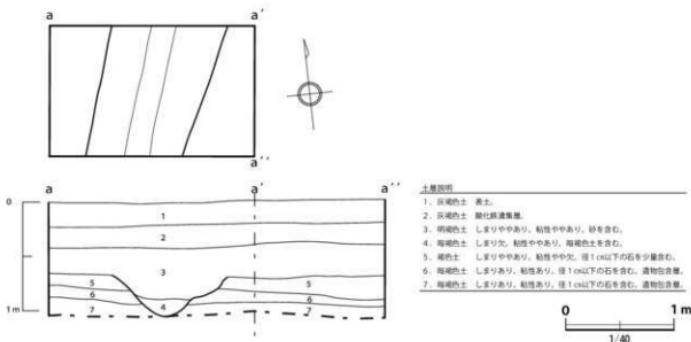
調査結果から、住宅建設部分は山梨県教育委員会が規定する遺跡との保護層が確保されるため、現状保存とした。



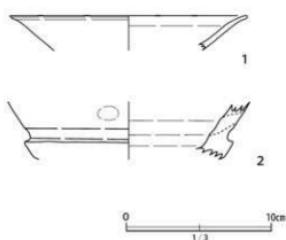
第5-1図 調査地位置図 (1/5,000)



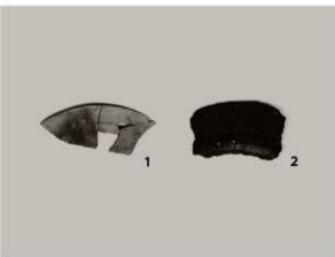
第5-2図 トレンチ配置図 (1/400)



第5-3図 第1トレンチ平・断面図 (1/40)



第5-4図 第1・2トレンチ出土遺物 (1/3)



第1・2トレンチ出土遺物

第5-1表 土器観察表

番号	種別	器種	法面 (cm)		割合 (%)	製作技法		胎土	含有机物	色調 外/内	焼成	注記番号	備考
			口徑	底径		内面	外面						
1	土師器	都萬高台河	(16.3)	—	—	口縁破片	口クロ彫形	泥	赤色・白色粒子	褐	良	KD1.1T	史前IX期II-C後半
2	土師質土器	ごね鉢	—	—	—	底部破片	ナデ	ユビナデ、指圧痕	中や粗 白色粒子	白褐、赤色 吉田/灰褐色	普通	AD1.2T	



第1トレンチ全景（東から）



第1トレンチ断面（北から）



第2トレンチ全景（南西から）



作業風景

## 6. 鮎沢 366-1、367

調査地 鮎沢 366-1、367

調査原因 集合住宅

調査期間 平成 23 年 11 月 15 日

対象／調査面積 832 m<sup>2</sup> / 13.05 m<sup>2</sup>

### 調査概要

調査地点は御勅使川扇状地扇端部に位置する。調査地点から北へ 350 m の地点には、原方と田方の境界に立地する御手洗池がある。御手洗池はかつて湧水量が豊富で、下流の鮎沢・古市場・南大師・清水・宮沢・戸田・田島を灌漑し、江戸時代には池に隣接する江原浅間神社にこれらの諸村が毎年初穂料を献納していた記録が残されている。江原浅間神社の創建年代は定かでないが、その神像は一本造りで作られた平安時代のものであり、少なくとも古代から続く神社であると考えられている。調査地点北北西 600 m の地点には延喜式内社にも比定される神部神社が立地し、さらに調査地点付近には古代七堂伽藍を備えた真言宗の古寺西光寺があつたと伝えられている。調査地点の南には西光寺の一画に南北朝時代、夢窓疎石により建立された古長禅寺が立地している。北側 700 m の地点には東出口遺跡が立地し、調査の結果、弥生時代から中世までの遺物が検出され、長期間にわたり連続と続く遺跡であることが明らかとなった。とりわけ竪穴建物跡が重複しており、大規模な古代の集落跡が想定されている。このように、神社や寺院、遺跡の状況からも調査地点周辺地域が古代大井郷の中心地であったと考えられている。

本試掘調査は集合住宅建設に伴うもので、2箇所のトレンチを設定した。調査の結果、第1トレンチから不整形の土坑を検出した。またその地山は遺物包含層でもあり、弥生時代後期から平安時代までの土器片が多数出土した。第2トレンチでは不明瞭ながら、幅約 1.5 m の溝状遺構の可能性がある遺構を検出した。第1トレンチ同様弥生時代後期から平安時代までの遺物がトレンチ全体から検出された。

調査結果から、住宅建設部分は山梨県教育委員会が規定する遺跡との保護層が確保されるため、現状保存とした。

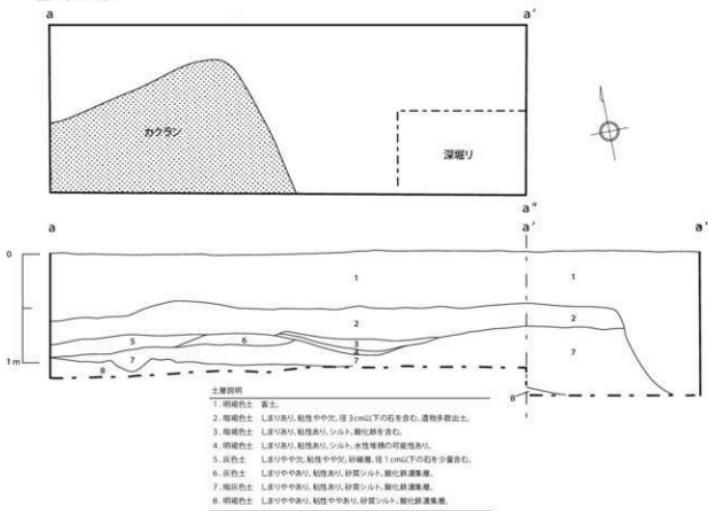


第6-1図 調査位置図 (1/5,000)

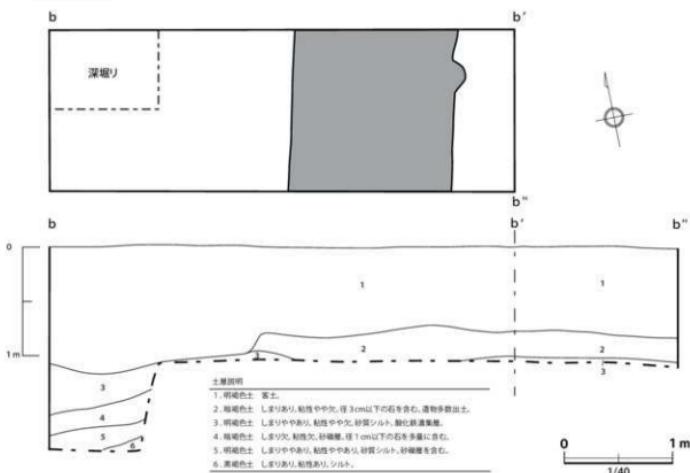


第6-2図 トレンチ配置図 (1/600)

### 第1トレーンチ



### 第2トレーンチ



第6・3図 第1・2トレーンチ平・断面図 (1/40)



第1トレンチ全景（西から）



第1トレンチ全景（東から）



第1トレンチ断面（南西から）



第2トレンチ全景（北西から）



第2トレンチ遺構検出状況



作業風景



第6・4図 第2トレンチ出土遺物 (1/3)

第6・1表 土器観察表

番号	種別	器種	法面(cm)			残存率 (%)	製作技法		胎土	含有物	色調 外/内	焼成	注記番号	備考		
			口徑	底径	壁高		内面	外面								
							口縫破片	口クロ四形		赤色粒子	褐	良	AS366_ZT			
1	土器部	环	—	—	—	—	口縫破片	口クロ四形	赤	赤色粒子	褐	良	AS366_ZT			
2	土器部	环	—	—	—	—	口縫破片	口クロ四形	赤	赤色・白色粒子	褐	良	AS366_ZT			
3	土器部	瓦片	—	—	—	—	断面破片	三方半	半円切	白色粒子	褐	普通	AS366_ZT	時期 IV・V期		



第2トレンチ出土遺物

## 7. 前御勤使川堤防址群

調査地 野牛島 1845-86

調査原因 店舗

調査期間 平成 23 年 11 月 18 ~ 24 日

対象 / 調査面積 3,007.42 m<sup>2</sup> / 114 m<sup>2</sup>

### 調査概要

調査地点は野牛島地区の前御勤使川左岸に位置する。

現在調査地点南側に東西に走る県道甲斐芦安線は明治

31 年まで前御勤使川の旧流路であり、明治 21 年陸地

測量部作成の 1 / 20,000 地形図や明治期の地籍図などを参照すると前御勤使川の両岸には多くの遺堤が分布

している状況がわかる。戦後多くの遺堤が削平され、当時の形状を良好な状態で留めているのは、調査地点南側の前御勤使川右岸を守る「お熊野堤」と呼ばれる堤防のほか数地点を数えるにすぎない。調査地点の左岸堤防も大部分が削平され、現状では堤防状の遺構をまったく確認できない状況であった。

調査にあたっては、明治期の地籍図によって堤防址の存在が推定されている区域に任意寸法のトレーニチを 2 箇所設定し、試掘調査を実施した。

### 発見された遺構

調査の結果、第 1 トレーニチでは自然に堆積した砂礫層だけが検出され、遺構・遺物は検出されなかつた。第 2 トレーニチでは堤防址の可能性がある遺構を検出した。遺構は第 14 ~ 21 層の砂礫層や砂質シルト層で構築されていると考えられ、堤防址の推定方向とほぼ同じ方向にのびている。堆積した砂礫や砂質シルトは南側に傾斜しており、砂礫堤の形状を呈しているが、狭小な調査範囲のため、正確な形状は不明である。なお、第 16 層上から幅約 40cm、長さ約 1.2m の範囲で 20cm 前後の石がまとまって検出された。この石列状の遺構は南側に向かって傾斜しており、堤防に並べられた竹蛇籠の堅籠であった可能性がある。ただし 1 例のみ検出されたことから、「牛」などの水制が崩れた可能性も否定できない。遺構の東側は第 14 層・22 層が洪水堆積層と推測される 9 層によって切られており、洪水によって堤防が破壊されている状況が明らかとなった。

### 総括

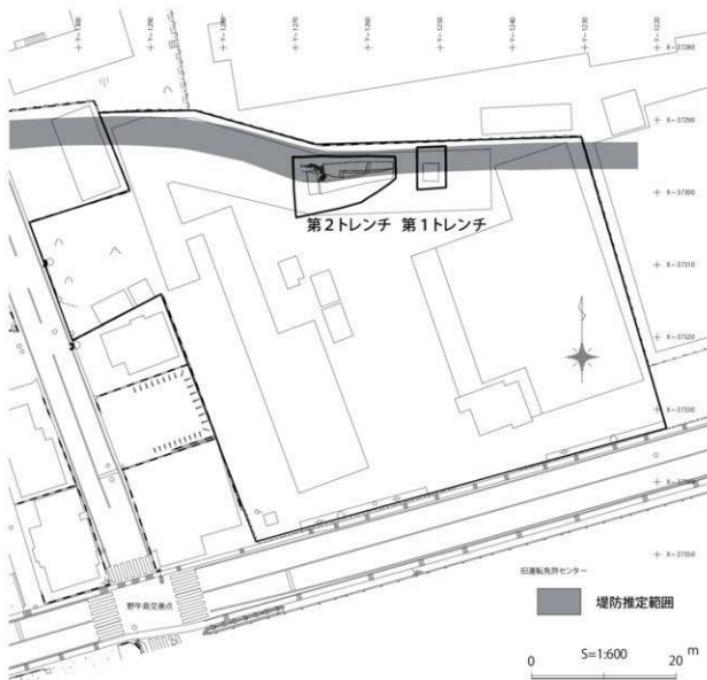
旧御影村に残された明治 29 年の水害図（第 7 - 6 図）をみると、調査地点は位置関係から「同所三番ヨリ六番迄切所式百五拾間」と書かれた堤防に比定できる。この堤防は決壊したことを示す灰色で塗られており、ほぼ全損した状況が判読できる。明治 29 年に前御勤使川を中心として起った大水害を契機として、上游に石継堤が築かれ前御勤使川が封鎖されたため、それ以後前御勤使川による大規模な水害は起らなかったと考えることができる。そこから遺構を切っている第 9 層の自然堆積層が、明治 29 年洪水時のものである可能性が考えられる。また、明治 29 年水害後の復旧作業を記録した写真には、調査地点より東に位置する前御勤使川左岸堤防が写されており、その写真を見ると堤防は大人の背丈ほどで、筋筋と推測される植物が植えられ、川表側に「牛」が並べられていたことがわかる。以上の点から、検出された石列が蛇籠であった可能性が想定されるのである。

なお、市教育委員会と工事主体者との協議の結果、建設される店舗の基礎と遺構との間に山梨県教育委員会が規定する保護層が確保されるため、遺構を現地で盛土保存することで合意した。



第 7 - 1 図 調査位置図 (1/5,000)

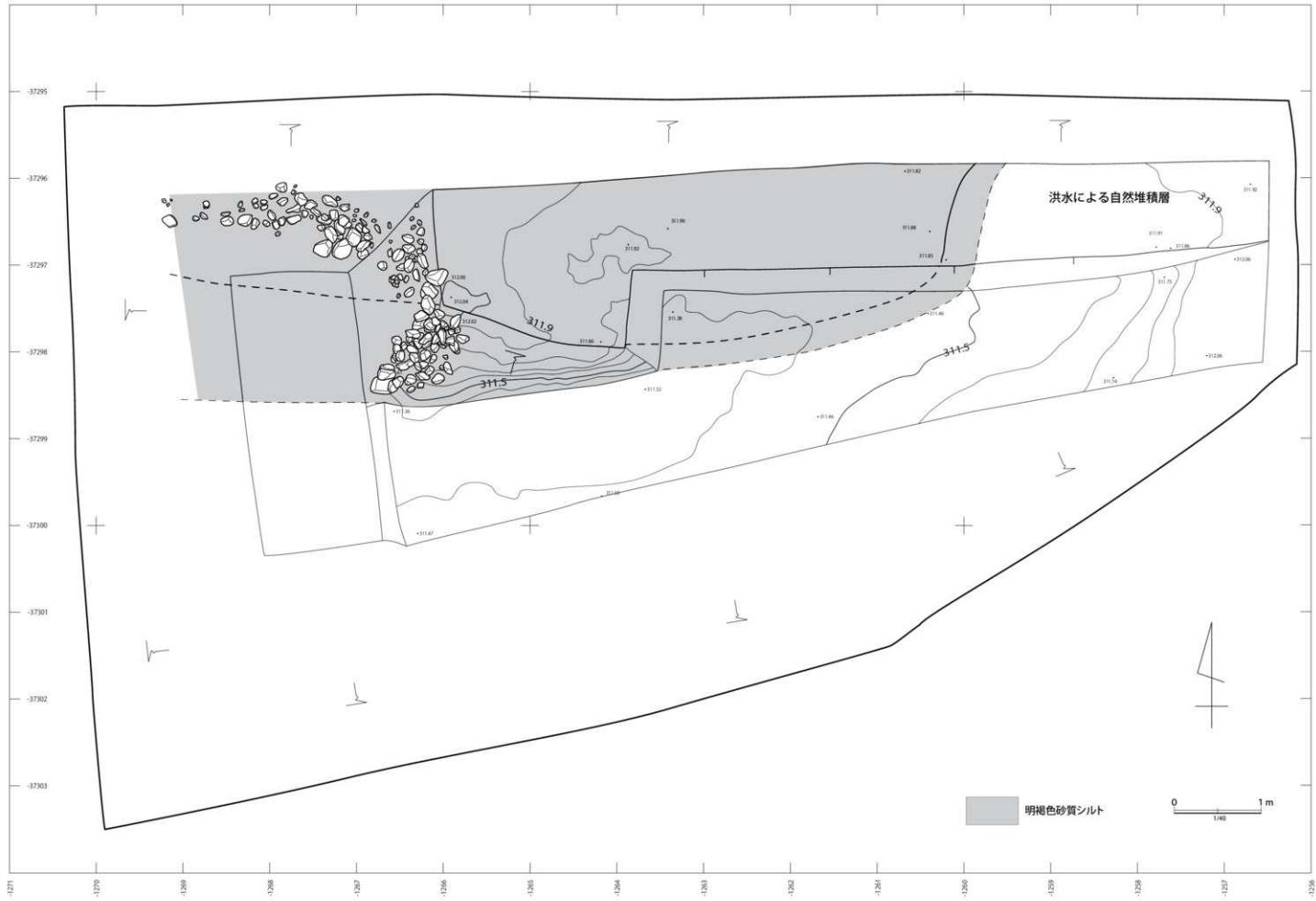




第7-3図 トレンチ配置図 (1/600)

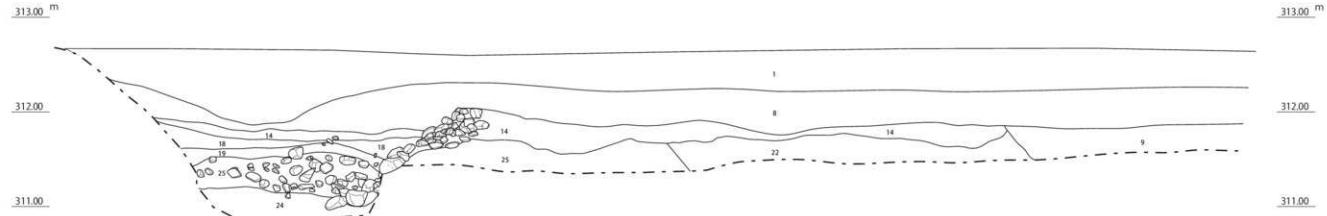


明治 29 年大水害後の前御使川 (齋藤美のる氏蔵)・右: 同写真部分

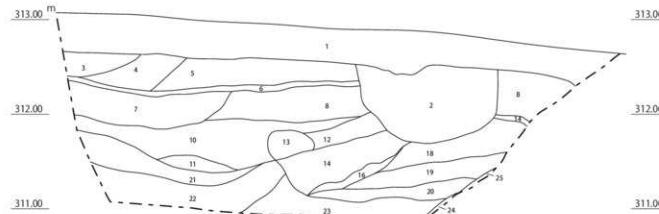


第7-4図 第2トレンチ平面図(1/40)

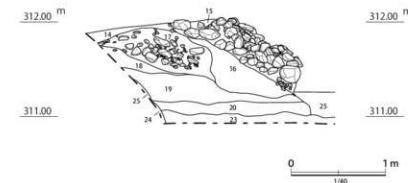
断面立面図A



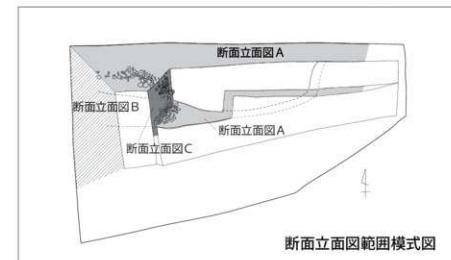
断面立面図B



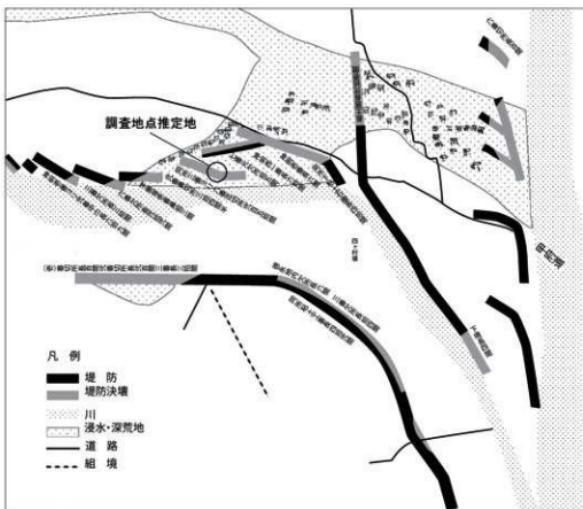
立面図C



土壤剖面	
1. 黄灰色土	底土。
2. 棕色土	カクシ・ゴミ。
3. 黄灰色土	砂礫層。厚1cm以下の石を含む。
4. 棕灰色土	砂・一握シルト。
5. 黄灰色土	砂質・厚3cm以下の石を少量含む。
6. 黄灰色土	砂質シルト。
7. 棕褐色土	砂礫層。厚5cm以下の石を多量に含む。
8. 黄灰色土	砂礫層。厚25cm以下の石を多量に含む。
9. 黄灰色土	砂礫層。厚15cm以下の石を含む。
10. 黄灰色土	砂。
11. 棕色土	砂礫層。厚2cm前後の石が主体。
12. 黄灰色土	砂・シルト。厚10cm以下の石を多量に含む。
13. 黄灰色土	砂・シルト。厚15cm以下の石を含む。細粒の砂を含む。
14. 棕色土	砂質シルト。径15mm以下の石を含む。
15. 棕色土	砂質・径1~30mmの石を含む。
16. 黄褐色土	砂質層。径10mm以下の石を含む。
17. 黄褐色土	砂質・細粒の砂。
18. 黄褐色土	砂質層。径20mm以下の石を含む。
19. 黄褐色土	砂質層・径10mm以下の石を含む。
20. 棕色土	砂質シルト。19号より粗粒が混入。
21. 黄褐色土	粗粒の砂・径2~20mmの石を少量含む。
22. 黄褐色土	砂質層。径10mm以下の石を多量に含む。
23. 黄褐色土	砂質層・径10mm以下の石を含む。
24. 棕色土	砂質・砂質シルト。
25. 黄褐色土	砂質・砂質層。径10cm以下の石を多量に含む。



第7-5図 第2トレーニング断面立面図(1/40)



第7-6図 明治29年水害図(部分)(南アルプス市蔵)および同図模式図



第1トレンチ全景（南東から）



第1トレンチ断面（東から）



第2トレンチ全景（南西から）



第2トレンチ近景（南東から）



第2トレンチ全景（南東から）



第2トレンチ断面（南東から）



第2トレンチ堤体断面（東から）



第2トレンチ堤体断面（東から）



第2トレンチ堤体断面（西から）



第2トレンチ堤体断面（南から）



第2トレンチ堤体断面（西から）



第2トレンチ石集中（南西から）

## 報告書抄録

ふりがな	へいせい 23ねんどまいぞうふんかざいしくつちょうさほうこくしょ
書名	平成 23 年度埋蔵文化財試掘調査報告書
副書名	各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書
シリーズ名	南アルプス市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 33 集
編著者名	斎藤秀樹
編著機関	南アルプス市教育委員会
所在地	〒 400-0492 山梨県南アルプス市鮎沢 1212 TEL055-282-7269
発行年月日	2013 年 3 月 29 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯 ° ° °	東經 ° ° °	標高 (m)	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
坂ノ上延神道跡 第4地点 百々・上八田道路	徳水 1715 他、上八田 1620 他	19208	HT-40 SN-3	35° 39' 14" 138° 29' 12"	313	2011年 5 月 10 ~ 20 日	14.96	私立小学校 グランド
坂ノ上延神道跡 第2地点	徳水 1720-1 他	19208	HT-40	35° 39' 16" 138° 29' 12"	314	2011年 8 月 11 日 ~ 9 日	32.25	私立中学校
百々・上八田道路	上八田 1544-1	19208	SN-3	35° 39' 6" 138° 29' 18"	308	2011年 10 月 17 ~ 19 日	7.55	個人住宅
西野 1694-1	西野 1694-1	19208	なし	35° 38' 19" 138° 29' 00"	310	2011年 11 月 10 日	15.55	集合住宅
上ノ切第1道路	鏡中条 433-2	19208	VK-14	35° 37' 8" 138° 29' 55"	267	2011年 11 月 14 日	7.88	個人住宅
鮎沢 366-1, 367	鮎沢 366-1, 367	19208	なし	35° 35' 52" 138° 28' 9"	265	2011年 11 月 15 日	13.05	集合住宅
前御動使川堤防址群	野中島 1845-86	19208	HT-46	35° 39' 49" 138° 29' 9"	313	2011年 11 月 18 ~ 24 日	114	店舗

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
坂ノ上延神道跡 第4地点 百々・上八田道路	散布地	平安～中世	竪穴建物、溝状造構、土坑	土師器、須恵器	
坂ノ上延神道跡 第2地点	散布地	平安～中世	竪穴建物、溝状造構、土坑	土師器、須恵器、獸骨	
百々・上八田道路	散布地	縄文時代	竪穴建物？	縄文土器	
西野 1694-1	散布地	中世？	溝状遺構	なし	
上ノ切第1道路	散布地	平安～中世	なし	土器	遺物台貯層
鮎沢 366-1, 367	散布地	古墳前～平安	竪穴状遺構、溝状遺構	土器	
前御動使川堤防址群	堤防址	近代？	堤防址	なし	前御動使川左岸の堤防

南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第33集  
山梨県南アルプス市

**平成23年度埋蔵文化財試掘調査報告書**

発行日 2013年3月29日

発行者 南アルプス市教育委員会

〒 400-0492

山梨県南アルプス市駄沢1212

TEL 055-282-7269

印刷所 ほおずき書籍株式会社

〒 381-0012

長野県長野市柳原2133-5

TEL 026-244-0235

FAX 026-244-0210